

## 研究課題別中間評価結果

1. 研究課題名:ヒト肥満細胞活性化制御技術の開発によるアレルギー疾患の克服

2. 研究代表者:渋谷 彰 (筑波大学 医学医療系 教授)

3. 中間評価結果

肥満細胞の抑制性受容体 Allergin-1、MAIR-I、MAIR-II のリガンドがすべてリン脂質であることを見出し、リン脂質リガンドによる免疫制御という新たな概念を提唱した。この時期のリガンド同定は、本研究計画の推進を促進させるだろう。また Allergin-1、MAIR-I のノックアウトマウス作製による各受容体の機能解析から、両受容体がアレルギー疾患の発症に重要であることを明らかにした。さらに肥満細胞の活性化を抑制する新規免疫受容体 Tec や Clec10a を同定し、基礎的に大変優れた成果が得られている。肥満細胞上の MAIR-I が敗血症の発症を促すというオリジナリティの高い成果も得られた。

また、Allergin-1 の発現量とヒトのアトピー素因との関連を示唆するデータを得ている点で、新規予防法の開発につながる可能性がある。真菌感染とアレルギー病態との関連も示し、その治療法の糸口を見出している。

臨床研究者や企業との連携も適切に進めている。

さらなる研究によりアレルギー疾患の新規治療法開発につながることを期待される。